パリで一緒に (1963)

PARIS - WHEN IT SIZZLES

メディア 映画
ジャンル コメディ
製作国 アメリカ
色彩 Color
時間 110分
初公開日 1964/05/30
公開情報 PAR
リバイバル 1972/06 [C I C]

【キャッチコピー】

永遠の妖精オードリー！世界の恋人ヘプバーン パリ中のおしゃれと花と香水が オードリーをつつみます 最高にステキなロマンティック・コメディ

【解説】

ちょっとひねったシットコム（シチュエーション・コメディ）が得意な監督クワインと脚本のアクセルロッドの共同製作で、デュヴィヴィエの「アンリエットの巴里祭」を翻案したものの映画化。二人の映画脚本家が共作するシナリオ通りに物語が進行していくという奇抜な構成で、オードリーは二役を、ホールデンは三役を樂しげにこなしている。脚本家ベンスン（ホールデン）が臨時秘書のガブリエル（ヘプバーン）にタイプさせたシナリオは、無名の新人俳優フィリップ（ホールデン二役）が娘ギャビーに恋をしており、パリ祭でのデートの約束をするが、急な撮影の仕事でそれをすっぽかすという内容。ここまで読んだプロデューサーの“つまらない、書き換える”の指示に彼は応じず、脚本は棚上げに。別のライターの手が入り（それも清書するのはガブリエルの仕事）、国際警察に追われているリック（ホールデン三役）という男が新たにギャビーの前に現われ、物語はロマンスから犯罪サスペンスへと変わってしまう……。そうこうするうちにベンスンとガブリエルの恋も進展していくのは言わずもがなで、挿話が少し鈍重でいかにもこなれていないのに（オードリーの美しさに免じて）目を瞑れば、まずまず楽しめる内容だ。

【クレジット】

監督	リチャード・クワイン	Richard Quine
製作	リチャード・クワイン	Richard Quine
	ジョージ・アクセルロッド	George Axelrod
原作	ジュリアン・デュヴィヴィエ	Julien Duvivier
	アンリ・ジャンソン	Henri Jeanson
脚本	ジョージ・アクセルロッド	George Axelrod
撮影	チャールズ・ラング	Charles Lang
音楽	ネルソン・リドル	Nelson Riddle
出演	ウィリアム・ホールデン	William Holden
	オードリー・ヘプバーン	Audrey Hepburn
	トニー・カーティス	Tony Curtis
	ノエル・カワード	Noel Coward
	マレーネ・ディートリッヒ	Marlene Dietrich